

1960-6

- ① エカフエ上級地質技術者作業部会の成果.....2
- ② ドロマイト資源とその利用.....8
- ③ ウランの地球化学と化学探査.....14
- ④ 質量分析計について.....16
- ⑤ 天然記念物④.....18
- ⑥ 地質調査所の各部課を尋ねて③.....20

地質ニュース No. 70

表紙の写真

土柱 四国路⑥ (5万分の1 脇町)

讃岐山脈の南麓の更新世にはよく土柱が発達している。写真は徳島県阿波郡阿波町のもので和泉砂岩が分解し堆積した砂礫層がさらに降雨で侵食されてこの奇景となったものである。不安定な尖塔が屏風状に連なるさまは壯観である。(石)

プリモオート	トプコール 75mm	ネオパンSS
f5.6	250分の1秒	D76
吉野 FS-3	コレクトール	

エカフエ主催第4回上級地質技術者の作業部会の成果について

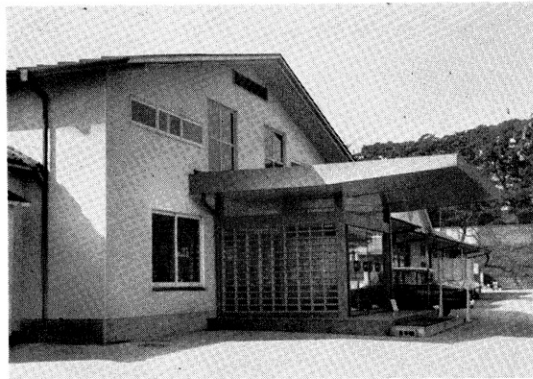
The Fourth Session of the Working Party of Senior Geologists (United Nations Economic Commission for Asia and the Far East)

4月20日の午後 高輪プリンス・ホテルの大ホールの正面には国連旗と日章旗がならんでかかり それを背にして通商産業次官上野幸七氏が作業部会(以下単に本会という)の開会へき頭 日本式に巻紙に書いた祝辞を次の通り述べた。本会が1954年に第1回目の会合を開いて以来 アジア極東地域の地質図・鉱物分布図の編さん地殻についての調査・研究とその成果の発表等に着実な努力を払ってきたこと これらの図面の利用が地域内の鉱工業の発展に大きく寄与するであろうこと 日本としては今後ともこの種の調査・研究が産業の開発に適切な科学的指針を与えるため これを強力に推進

する必要のあること さらに地下水源の地質調査・土木地質調査についての議題が 今回新しくとり上げられたことの必要性などにつき力強く述べ 参加各国(25カ国)の代表者約50人の盛んな拍手を受けた。次いでエカフエ事務局長代理 インド フランス ソ連各代表の挨拶を終り本会の議長として日本代表の兼子地質調査所長

副議長にD. N. Wadia 博士(インド) N. S. Fernandez 氏(フィリピン)がそれぞれ選出され 4月26日正午までの6日間の会議に入った。

参加国のうち最大の陣容をもつ日本代表団は 次の各氏であった。



会場入口(高輪プリンスホテル)



会議場



上級地質技術者の作業部会で兼子議長の挨拶
左から リー博士(エカフエ事務局) 兼子議長
シン氏(エカフエ事務局)